資料３

令和元年度第３回
地域包括支援センター運営協議会資料

地域ケア推進会議（令和元年度の地域ケア会議の開催状況）について

１　主旨

地域包括ケアシステムを実現する手段の一つとして、開催を推進している地域ケア会議について、令和元年度における会議の実績を報告するとともに、今後の事業展開の方向性について共有するもの。

２　地域ケア会議の概要

（１）目的

地域ケア会議は、課題を抱えた個人の支援内容の検討による課題解決を出発点として、関係者間のネットワークの構築、地域課題の把握等を行うことを目的としている。

また、個別ケースの支援内容の検討を積み重ねることによって、当該地域において共通する課題や要因を見出すことができ、その地域に不足している社会資源の開発、新たな仕組みづくりに向けた政策形成などに繋げることができると想定している。

（２）５つの機能（それぞれが相互に連携・循環）

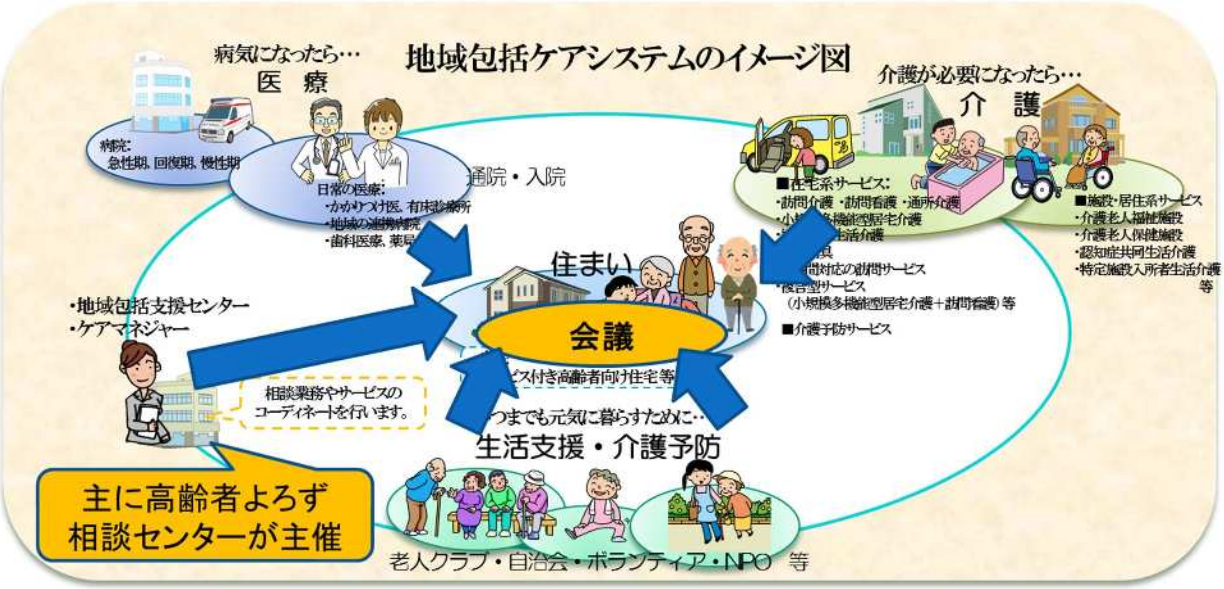
	機能	具体的内容
1	個別課題解決機能	・自立支援のためのケアマネジメントの質向上 ・支援困難事例等に関する相談、助言
2	地域包括支援ネットワーク構築機能	・住民との情報共有（連携力の向上） ・関係機関の役割の明確化
3	地域課題発見機能	・個別ケースの背後に同様のニーズを発見 ・検討した地域課題の解決策を関係者で共有
4	地域づくり・資源開発機能	・それぞれの活動内容、得意分野を活用 ・必要な地域資源を地域で開発
5	政策形成機能	・市町村、県、国への施策の提言

※地域ケア会議運営マニュアルＰ２３～２５参照（説明欄は抜粋）

（３）目指すべき姿

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた１つの手法である。地域包括ケアシステムを構成する各分野（医療・介護・住まい・生活支援・介護予防）の連携を通して、「地域で尊厳のあるその人らしい生活の存続」ができるため５つの機能を備えた地域ケア会議を活用する。

【参考：地域包括ケアシステムにおける地域ケア会議のイメージ図（厚生労働省資料加工）】



（４）平塚市における地域ケア会議の分類

ア　第１層：地域ケア個別会議

個別課題の解決、介護支援専門員による自立支援の方針を決定する。個別事例の解決を蓄積することにより、地域課題を明らかにする。

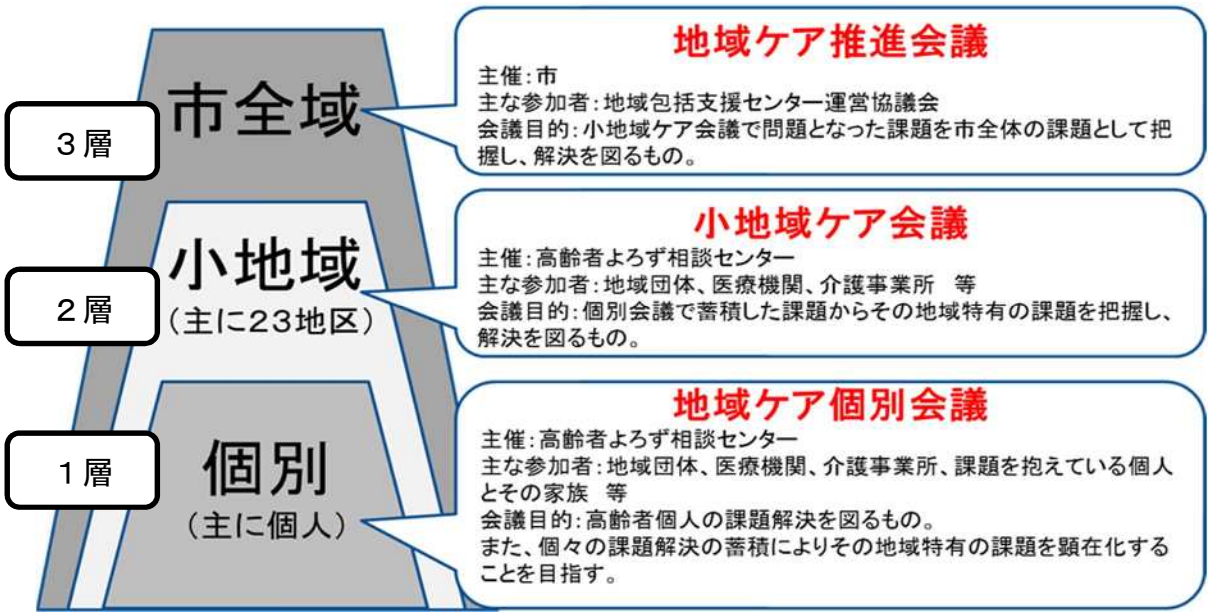
イ　第２層：小地域ケア会議

小地域の課題の把握および対応を検討する。地域ケア個別会議で出された個別課題で小地域に共通する課題を検討する。

ウ　第３層：地域ケア推進会議

市における地域課題の把握および対応を検討する。小地域ケア会議で検討された課題で小地域の圏域内では解決できない市全域に共通する課題を検討する。

【参考：地域ケア会議の構造イメージ図】



３　令和元年度の会議開催実績等

（１）会議開催数（平成３１年４月～令和２年３月）

〇小地域ケア会議：５２回

〇地域ケア個別会議：２８回

【各包括圏域別開催実績】

包括名	あさひきた	あさひみなみ	おおすみ	倉田会	ごてん	サンレジ	とよだ	にし ※	富士白	ふじみ	まつがおか	みなと	ゆりのき
個別	1	0	2	2	0	3	1	2	4	7	3	2	1
小地域	3	2	3	2	1	6	1	23	1	2	2	2	4

※ひらつかにしの小地域ケア会議の開催数はサロン単位の会議開催数も含む。

※まだ開催していない会議は予定の件数を含む。

（２）会議における議論内容等

※高齢者よろず相談センター（以下「包括」という。）からの報告書及びヒアリングにより収集した主な意見をまとめたもの。

ア　地域ケア会議を開催する経緯（開催するきっかけ）

①　地域ケア個別会議においては、近隣住民、ケアマネジャー、地域団体からの相談により会議開催に至る例が多い。

②　小地域ケア会議においては、関係団体と調整のうえ、定期開催をしている例が多い。

イ　地域ケア会議の開催を通して発見された地域課題

①　サロン等に参加しない高齢者、地域と関わりのない高齢者、支援を望まない高齢者（閉じこもり高齢者）をどのように支援していくか課題である。

②　認知症等の正しい知識や周囲の理解が不十分である。

③　地域の活動団体の人材不足が課題である。

④　認知症に関する介護保険サービス以外のインフォーマルサービスの不足

ウ　発見された地域課題の解決方法（地域での取り組み）

①　認知症の正しい理解に繋げるため、地域団体（ボランティア団体等）に対して認知症サポーター養成講座を開催した。また、状況に応じて認知症サポーター上級者研修を勧める等、更なる理解を促している。

②　閉じこもり高齢者へのアプローチの一つとして、サロンへの参加のきっかけになるようサロン参加者の声について回覧板を通して発信した。

エ　地域ケア会議を開催して得られたメリット

①　地域において、課題の共有、連携体制の強化が図れた。

②　地域内の福祉施設が地域貢献できる機会となり、福祉施設に対して住民の理解が深まるきっかけとなった。

③　地域の医療関係者、ボランティア団体等が会議に参加することで、顔の見える関係性が作れ、互いの立場や役割を認識することができた。

オ　地域ケア会議の開催を通して発見された地域の社会資源

①　地域で活動している自主防災組織を改めて認識できた。

②　地域貢献をしたいと考える住民や福祉施設の職員がいることが発見できた。

カ　地域ケア会議を開催するうえでの今後の課題

①　医療・介護関係者や地域住民団体を集めての会議であるため、会議開催までの調整が難しい。

②　課題の共有はできているが、それをどのように解決していけるのか、具体的な方法や役割分担等の話まで進めることが難しい。

キ　地域ケア会議から抽出された行政への提言

①　さまざまな要因が高齢者の閉じこもりに繋がっており、閉じこもり傾向にある高齢者の把握や支援について取り組む必要がある。

４　地域課題への今後の対応（閉じこもり高齢者への支援）

平成３０年度に引き続き、令和元年度の地域ケア会議においても、多数の包括から地域課題として閉じこもり高齢者についての課題が挙げられた。

令和元年度の取組としては、市内１３地区の日常生活圏域ごとに行った「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」により、外出をほとんどしていない高齢者が圏域ごとにどの程度暮らしているのかという実態把握をすることができた。また、各包括において支援策を計画し、閉じこもり高齢者を対象としたサロンを企画した例もあった。

令和２年度においては、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の分析結果や、一部の包括が実施した支援策の好事例等について共有することにより、全市的に閉じこもり高齢者支援の取組を推進する。

地域ケア推進会議（地域包括支援センター運営協議会）においても「閉じこもり高齢者の把握、社会参加への効果的な取組等」について、ご意見をいただきながら、地域課題の解決を目指していく。

以　上